

●ロシア

新型コロナウイルス感染症の第3波を迎えたロシア

2021年7月初旬において、ロシアは新型コロナウイルス感染症拡大の第3波の只中にある。それに先立つ第2波は昨年12月にピークを迎え、約2万8千人の1日当たり新規感染者数を記録した。その後、2021年に入ると感染は収束していき、5月初旬の感染者数は1日当たり約8千人にまで減少した。しかし、それから1カ月が経過したのち、感染状況は急速に再拡大に転じ、6月末に1日当たり新規感染者数が2万人を上回った。これは昨年春の第1波のピーク（2020年5月、約1万人）を大きく上回った。2021年7月1日現在までの感染者数は総計で547万人、死者数は13万人（1日当たり600人超）である。ロシアの感染者数総計は米国（3368万人）、インド（3046万人）、ブラジル（1862万人）、フランス（584万人）に次いで多い。

このような状況の中で、地域レベルで制限措置が実施され、その一方で国民へのワクチン接種が進められている。7月1日現在、総計4088万回、2335万人（完全接種は1752万人）、1日当たり50万回超のワクチン接種が行われている。2割以上のロシア国民がすでに1回以上ワクチンを接

種している。ただし、ワクチン接種の進展状況は芳しくない。この背景には、コロナやワクチンへの不信が国民の間に根強いことがある。この感染状況の深刻化を受けて、3割強の連邦構成主体でワクチン接種が義務化された（7月14日現在、29の連邦構成主体で、特定カテゴリーの住民への接種が義務化）。例えば、モスクワ市では、国家公務員・外食・ジム・銀行・教育・住宅・電力・商店・美容院・サービス業・公共交通機関・保健・福祉・スポーツ施設などの労働者の60%以上は、7月15日までに第1回目、8月15日までに第2回目のワクチン接種を完了させなければならない。このことに関連して、市内のレストランやカフェの利用の際に、ワクチン接種証明書（QRコード）やPCR検査の陰性証明が求められるようになった。

2021年第1四半期のロシア経済

2020年のコロナショックは、家計消費を大きく減少させ、ロシア経済を縮小させた。また、投資（総蓄積）も減少したが、政府と非営利組織の支出が増え、輸入が実質減となったことは、成長率にプラスに寄与した（図）。

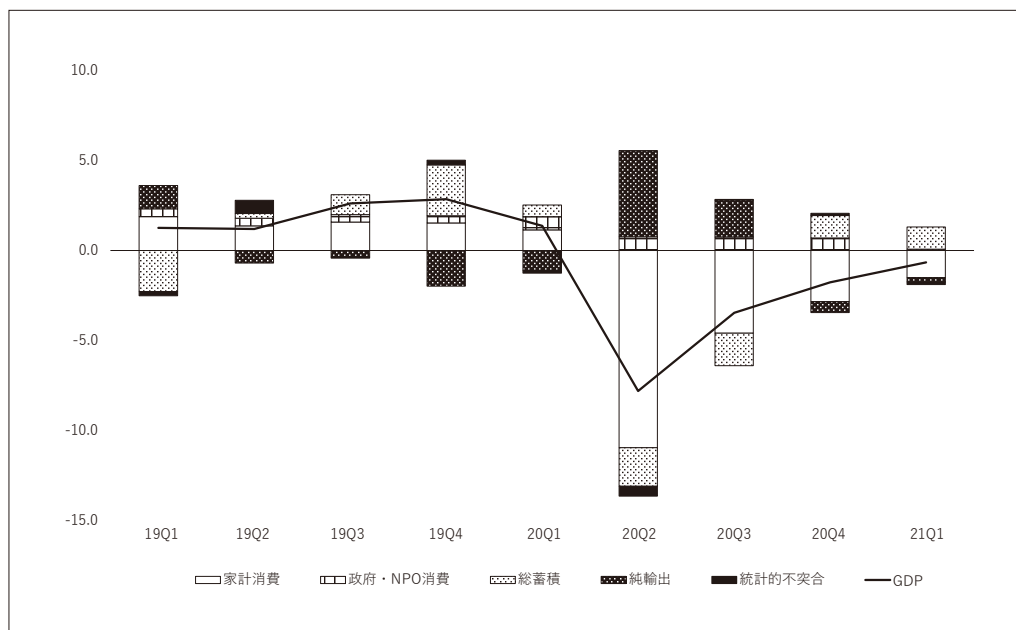
2021年の第1四半期（21Q1）の国内総生産（GDP）は前年同期比で0.7%減少しているが、経済回復の兆しがみえる。

支出面 GDP をみると、最終家計消費の前年同期比減少率は、20Q2が21.7%減、20Q3が9.1%減、20Q4が5.7%減であり、2021年第1四半期には2.8%減まで上昇した。小売やサービスの取引動向はこの改善傾向を裏付けている。小売取引高の落ち込みは2021年第1四半期で前年同期比1.4%減となった。また、サービス売上高・実質減少も、20Q2の34.6%減から21Q1には5.0%減にまで戻った。月次の動向では、小売売上高は4月、サービス売上高は3月にプラスに転じており、回復傾向がみられる。

ロススタットが定期的実施しているアンケート調査の結果では、消費者がロシア経済全般および自分の経済状況を主観的に評価する「消費者信頼感指数」の数値が20Q1のマイナス11（ポジティブな評価よりもネガティブな評価の比率が11パーセントポイント大きい）から20Q2にマイナス30へと急低下し、20Q3マイナス22、20Q4マイナス26と低迷したのち、21Q1マイナス21、21Q2マイナス18へ上昇している。

ただし、消費者物価が急速に上昇しており、21Q1に実質貨幣可処分所得が3.6%減少している点が懸念される。消費者物価指数（前年12月比）は2020年3月・6月で1.3%および2.6%であったが、2021年はその2倍近い2.1%および4.2%であっ

図 ロシアの四半期別GDP実質成長率の寄与度分解 (%)



(出所) ロススタットのデータに基づき筆者作成

た。前年同期比でみた21Q1および21Q2の消費者物価指数の上昇率はそれぞれ5.6%および6.0%であり、2016年以降の6年間でもっとも急速にインフレが進行している(前年12月比で、2016年6月3.3%、通年5.4%、2014年6月4.8%、通年11.4%)。この背景には、政府支出の増加(2020年にコロナ関連対策費として約3.5兆ルー

ブルが支出)、コロナショックによる生産の減少と食料品価格の世界的な上昇傾向(輸入インフレ)などがある。

一方で、投資は増加する傾向にあり、20Q4および21Qにおいて総蓄積の前年同期比実質増減率はそれぞれ4.8%増(総固定資本形成は2.1%減)および8.0%増(同0.4%減)、固定資本投資の

1.2%増および2.0%増であった。コロナ感染状況が深刻化しているにもかかわらず、厳しい国家的な制限措置は導入されていないため、経済活動は回復しており、輸送貨物量も2021年3月以降は増加している。

ERINA調査研究部部長代理・主任研究員
志田仁完

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
GDP・実質成長率(%) ⁽¹⁾	4.0	1.8	0.7	▲2.0	0.2	1.8	2.8	2.0	▲3.0
固定資本投資・実質増減率(%) ⁽²⁾	6.8	0.8	▲1.5	▲10.1	▲0.2	4.8	5.4	2.1	▲1.4
鉱工業生産高・実質増減率(%) ⁽³⁾	3.4	0.4	2.0	0.2	1.8	3.7	3.5	3.4	▲2.6
輸送貨物量・実質増減率(%) ⁽²⁾	2.9	0.6	▲0.1	0.6	1.8	5.6	2.7	0.6	▲4.9
小売売上高・実質増減率(%) ⁽²⁾	6.3	3.9	2.7	▲10.0	▲4.8	1.3	2.8	1.9	▲3.2
サービス売上高・実質増減率(%) ⁽²⁾	3.7	2.1	1.3	▲2.0	▲0.3	0.2	1.4	0.6	▲14.8
実質貨幣可処分所得・増減率 ⁽²⁾	4.6	4.0	▲1.2	▲2.4	▲4.5	▲0.5	0.4	1.0	▲3.0
消費者物価(%) ⁽⁴⁾	6.6	6.5	11.4	12.9	5.4	2.5	4.3	3.0	4.9
輸出額(10億ドル、通関データ) ⁽⁵⁾	524.7	527.3	497.8	343.5	285.8	357.8	449.6	424.5	337.1
輸入額(10億ドル、通関データ) ⁽⁵⁾	317.2	315.0	286.7	182.7	182.3	227.5	238.5	244.3	231.7
為替相場(ドル/ルーブル) ⁽⁶⁾	30.4	32.7	56.3	72.9	60.7	57.6	69.5	61.9	73.9
原油価格(ブレント、ドル/バレル) ⁽⁷⁾	111.6	108.6	99.0	52.3	43.6	54.1	71.3	64.3	42.0

	2019				2020				2021
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
GDP・実質成長率(%) ⁽¹⁾	1.3	1.2	2.6	2.9	1.4	▲7.8	▲3.5	▲1.8	▲0.7
固定資本投資・実質増減率(%) ⁽²⁾	1.3	0.3	1.9	2.7	3.5	▲5.3	▲5.0	1.2	2.0
鉱工業生産高・実質増減率(%) ⁽³⁾	3.2	3.2	4.4	2.8	2.6	▲6.7	▲4.8	▲1.7	▲0.9
輸送貨物量・実質増減率(%) ⁽²⁾	2.3	1.4	▲0.2	▲0.7	▲3.9	▲8.2	▲5.3	▲2.2	0.5
小売売上高・実質増減率(%) ⁽²⁾	2.3	1.9	1.2	2.1	4.9	▲15.1	▲0.8	▲1.7	▲1.4
サービス売上高・実質増減率(%) ⁽²⁾	0.4	0.3	1.0	0.3	0.4	▲34.6	▲14.5	▲10.4	▲5.0
実質貨幣可処分所得・増減率 ⁽²⁾	▲2.1	0.7	2.5	2.5	1.3	▲7.5	▲5.0	▲0.9	▲3.6
消費者物価(%) ⁽⁴⁾	5.2	5.0	4.3	3.4	2.4	3.1	3.5	4.4	5.6
輸出額(10億ドル、通関データ) ⁽⁵⁾	104.8	102.0	104.3	113.5	90.7	71.5	79.8	95.1	93.6
輸入額(10億ドル、通関データ) ⁽⁵⁾	53.4	59.6	62.8	68.5	53.5	52.4	58.0	67.7	62.4
為替相場(ドル/ルーブル) ⁽⁶⁾	65.5	64.3	64.8	63.3	69.3	71.5	75.9	76.4	75.5
原油価格(ブレント、ドル/バレル) ⁽⁷⁾	63.2	68.9	61.9	63.4	50.4	29.3	43.0	44.3	60.8

	2020												2021				
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
経済基礎部門商品・サービス生産高(%) ⁽⁸⁾	1.8	4.7	2.3	▲8.9	▲9.2	▲6.5	▲4.2	▲2.9	▲1.8	▲4.5	▲1.2	2.4	▲1.2	▲1.7	3.5	13.8	14.1
鉱工業生産高・実質増減率(%) ⁽³⁾	1.2	4.6	2.2	▲4.7	▲8.0	▲7.3	▲6.1	▲4.5	▲4.0	▲5.7	▲1.5	2.1	▲1.9	▲3.2	2.3	7.6	11.8
輸送貨物量・実質増減率(%) ⁽²⁾	▲3.9	▲0.5	▲6.8	▲6.0	▲9.2	▲9.5	▲7.9	▲4.6	▲3.4	▲3.6	▲1.7	▲1.3	▲2.1	▲0.5	4.1	6.4	11.1
小売売上高・実質増減率(%) ⁽²⁾	2.8	4.9	6.9	▲22.0	▲17.5	▲6.1	▲0.5	▲0.7	▲1.2	▲0.4	▲2.4	▲2.2	0.5	▲1.2	▲3.2	35.1	27.2
サービス売上高・実質増減率(%) ⁽²⁾	3.5	2.6	▲4.4	▲36.4	▲37.6	▲29.7	▲20.6	▲13.8	▲9.1	▲10.6	▲11.6	▲9.1	▲10.5	▲7.0	2.7	54.0	52.0
消費者物価(%) ⁽⁴⁾	0.4	0.3	0.5	0.8	0.3	0.2	0.3	▲0.0	▲0.1	0.4	0.7	0.8	0.7	0.8	0.7	0.6	0.7
輸出額(10億ドル、通関データ) ⁽⁵⁾	31.1	29.1	30.5	25.0	21.6	24.9	24.7	23.9	31.2	28.7	30.3	36.1	27.1	30.1	36.4	35.6	-
輸入額(10億ドル、通関データ) ⁽⁵⁾	16.1	17.7	19.7	17.0	16.8	18.6	19.0	19.3	19.7	21.4	22.1	24.2	16.8	20.6	25.0	25.3	-
為替相場(ドル/ルーブル) ⁽⁶⁾	63.0	67.0	77.7	73.7	70.8	70.0	73.4	74.6	79.7	79.3	75.9	73.9	76.3	74.4	75.7	74.4	73.6
原油価格(ブレント、ドル/バレル) ⁽⁷⁾	63.7	55.7	32.0	18.4	29.4	40.3	43.2	44.7	40.9	40.2	42.7	50.0	54.8	62.3	65.4	64.8	68.5

(1)『ロシア短期経済指標(2021年5月)』(2021年6月30日)の数値。2020年Q4は算術平均による筆者計算値。

(2)『ロシア短期経済指標(2021年5月)』(2021年6月30日)の数値。

(3)OKVED・第2版の産業部門分類(2018年価格)に基づく。『ロシア短期経済指標(2021年5月)』(2021年6月30日)の数値。

(4)ロススタットウェブサイト掲載値(2021年7月8日更新値)。年次データは前年12月比、四半期データは対前年同期比、月次データは前月末比の増減率である。

(5)UISISデータ(2021年3月3日更新値)。

(6)『ロシア短期経済指標(2021年5月)』(2021年6月30日)。年次・月次データは、期末の数値。四半期は3カ月平均値。

(7)スポット価格。四半期データは月次データの平均値。アメリカ合衆国エネルギー省(2021年7月8日更新値)。

(8)省庁間統一情報統計システム(UISISデータベース)の2021年7月12日更新値。